

年 組 名 前 :

問1

2023年に山梨県内で生産されたミネラルウォーターは、過去最多でした。協会は、その理由を、どのように分析していますか。

・指摘: .....

・分析: .....

問2

山梨県と全国の生産量を教えてください。

・山梨: .....

・全国: .....

問3

宅配水市場でトップシェアの会社は、24年9月末時点で保有契約件数は何件で、富士吉田工場で何割を採水していますか。

・契約件数: ..... 件

・採水割合: .....

問4

同社は、今後の国内のウォーターサーバー普及率は、どのようになると話していますか。

.....

## 県内ミネラル水生産最多

### 23年 全国の3分の1超す

年	生産量(千リットル)	シェア(%)
2000	48.8	49.5
01	48.6	42.3
02	40.9	41.1
03	39.5	39.8
04	35.6	33.9
05	29.8	33.5
06	33.9	40.8
07	33.5	42.4
08	34.8	44.7
09	40.7	43.8
10	35.4	40.4
11	36.4	38.1
12	35.9	35.9
13	35.9	35.9
14	35.9	35.9
15	35.9	35.9
16	35.9	35.9
17	35.9	35.9
18	35.9	35.9
19	35.9	35.9
20	35.9	35.9
21	35.9	35.9
22	35.9	35.9
23	1735275	9.8

日本ミネラルウォーター協会によると、過去最多を更新した。2年ぶりに前年を上回り、都道府県別の生産量では3分の1超を占めた。業界関係者は「ミネラルウォーターが嗜好品から日用品に変化してきた」と指摘し、「山梨は富士山や八ヶ岳、南アルプスという水源がブランドとして確立していることが、生産量の多さにつながっているのではないかと分析した。」

協会によると、23年は22年の158万35千リットルより15万5240千リットル増えた。過去最多だった21年(158万3870千リットル)を15万1405千リットル上回った。都道府県別のシェアは前年より0.5ポイント高い35.9%で全国トップで、2位の静岡(9.3%)を大きく引き離れた。全国生産量は483万1165千リットルだった。協会によると、00年以降、ミネラルウォーターの生産量は増加傾向が続く。協会担当者は生活で使う水として水道水からの置き換わりが進んでいるとし、「ミネラルウォーターが嗜好品から生活用品に変化してきている」と分析。山梨のシェアが高い要因については「富士山や八ヶ岳がブランドとして認知され、企業が多い」と指摘した。

宅配水市場でトップシェアのプレミアムウォーターホールディングスは10年7月に富士吉田工場の稼働を始め、13年8月には増設して設備を拡充。24年9月末時点で保有契約件数は167万件で、富士吉田工場が4割程度を採水している。

同社は日本のおいしい天然水の水源といえば富士山というイメージを持っている人も多いとし、「富士吉田に水源を持つことで当社製品に興味を持つお客さまもいる」という。国内のウォーターサーバーの世帯普及率は8%程度といい、「宅配水市場はさらなる成長が見込まれる」とした。(雨宮丈貴)

(2024年12月30日付 山梨日日新聞1面)